



令和7年9月25日

前期学校評価アンケート 結果と分析

京都市立北総合支援学校中央分校

令和7年度 前期学校評価アンケート にご協力いただき、ありがとうございました。

◇ 実施期間 令和7年9月8日（月）～9月16日（火）

◇ 対象者・回答率

	保護者			教職員	児童生徒		
	小	中	高		小	中	高
対象者数 (人)	34	23	42	79	34	23	42
	99 (家庭数として98)				99		
回答者数 (人)	55			57	3	1	18
					22		
回答率 (%)	55.6%			72.2%	8.8%	4.3%	41.9%
					22.2%		

◇ 目的

本アンケートは、学校教育目標「自分から 自分で 自分らしく みんなとともに 学び合う子どもの育成」に基づき、具体化された①「めざす学校像」、②「めざす教職員像」について教職員・保護者を対象に、③「めざす子ども像」について児童生徒を対象に実施し、学校の現状と課題を把握することを目的としています。

◇ 分析・表示方法

- 4つの選択肢（よくできている、大体できている、あまりできていない、できていない）の総数に対して、「よくできている」と「大体できている」を合わせた“肯定的な回答”の数値を%で表します。成果や課題を把握しやすいように、90%以上を水色（良い評価）、80%未満は赤色（良くない評価）、で表示し、教職員保護者間で比較したり、肯定的な回答が低い原因を分析します。

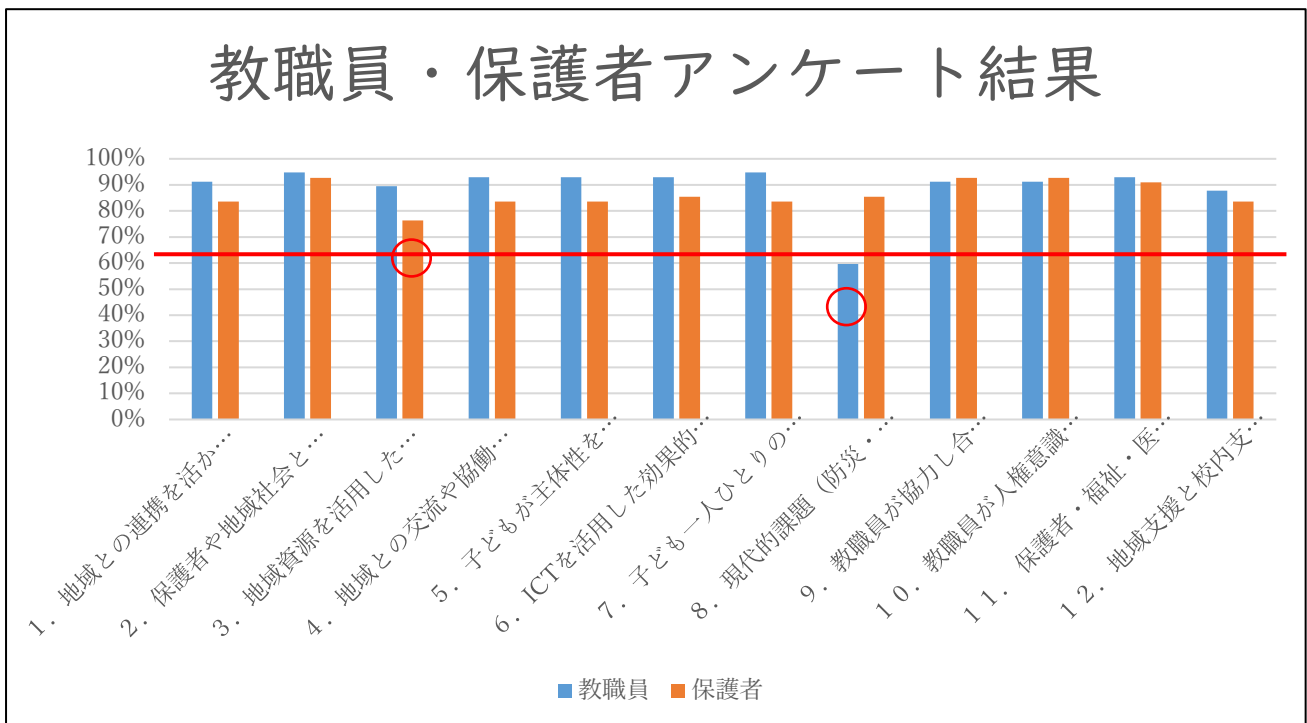
◇ アンケート結果

【対象：教職員・保護者】

めざす学校・教職員像を達成するための重点項目	重点項目に合わせた設問	教職員	保護者
地域社会と協働・連携する社会に開かれた教育課程の充実	1. 地域との連携を活かした教育活動（例：体験活動・探究学習など）が行われている。	91%	84%
	2. 保護者や地域社会との情報共有（広報活動・参観など）が適切に行われている。	95%	93%

	3. 地域資源を活用した学びが、児童生徒の主体性を育てている。	89%	76%
	4. 地域との交流や協働活動が、児童生徒の社会性の育成につながっている。	93%	84%
未来社会を見据え、子どもの生きる力を育む授業の創造	5. 子どもが主体性を持って、仲間と関りを意識した授業が行われている。	93%	84%
	6. ICT を活用した効果的な授業が実施されている。	93%	85%
	7. 子ども一人ひとりの可能性を広げる学習活動が工夫されている。	95%	84%
	8. 現代的課題（防災・感染症など）への対応を含む教育活動が充実している。	60%	85%
一人ひとりが持続可能な社会の担い手として、共生社会の形成に向けて取り組む	9. 教職員が協力し合い、働きがいを感じられる職場づくりが進められている。	91%	93%
	10. 教職員が人権意識を高く持ち、多様な価値観を認め合う姿勢を持っている。	91%	93%
	11. 保護者・福祉・医療・行政などとの連携体制が適切に構築されている。	93%	91%
	12. 地域支援と校内支援の一体化による支援体制が機能している。	88%	84%

◇グラフ



◇分析 I

全体的には教職員・保護者共に高い評価が得られています。赤い色のついた設問3、と設問8の評価が低くなっていますので、この二点について分析をします。

設問3「地域資源を活用した学びが児童生徒の主体性を育てている」では、地域との連携や

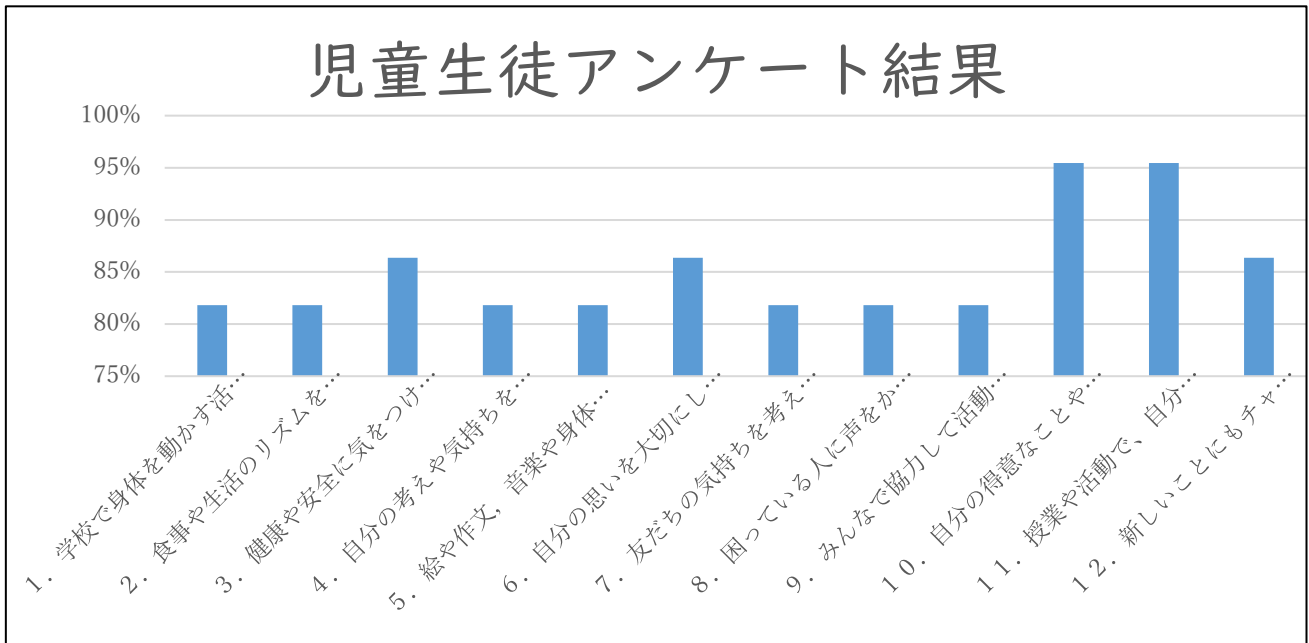
体験活動が進み、昨年度よりも取組みが広がっています。児童生徒の主体性をさらに高めるためには、活動内容の工夫だけでなく、一人ひとりに適切な支援や、安心して挑戦できる環境づくり、指導者のかかわり方が重要です。児童生徒の特性やニーズに応じた配慮を行い、「できた」「次はもっとこうしたい」という主体的な学びを促す仕組みづくりが今後の課題です。

項目8「現代的課題（防災・感染症など）への対応」については、前期に避難訓練が実施できていなかったことが要因の一つだと考えます。避難用救助袋の使用動画を作成しいつでも確認できるようにしたり、職員会議で不審者対応についての共通理解をはかったりという取組をしていますが、後期には消防署と連携した訓練を計画していますので、動きを伴った研修を実施していきます。感染症対策では、コロナが5類感染症となった現在も、支援学校としては引き続きインフルエンザやノロウイルス、手足口病など、日常的に注意が必要な感染症への対応が求められます。今後は、手洗いや咳エチケット、健康観察の習慣化、感染症流行時の正しい情報提供や予防教育など、児童生徒の発達段階や特性に応じた学習活動を充実させることが重要です。また、災害級の暑さへの対応として熱中症計の設置や暑さ指数の掲示などを行い、重大な熱中症事案を防ぐことができました。今後も児童生徒の発達段階や特性に応じた安全・安心な学習環境の充実を図ります。

【対象：児童生徒】

めざす子ども像	めざす子ども像に合わせた設問	児童生徒
健やかな身体をつくる子ども	1. 学校で身体を動かす活動に楽しく参加している。	82%
	2. 食事や生活のリズムを大切にしている。	82%
	3. 健康や安全に気をつけて行動している。	86%
自分の思いをのびのびと表現する子ども	4. 自分の考えや気持ちを言葉や行動で伝えている。	82%
	5. 絵や作文、音楽や身体の動きなどで自分らしく表現している。	82%
	6. 自分の思いを大切にしながら、友だちの話も聞いている。	86%
他者を尊重し、かかわり合いながら学ぶ子ども	7. 友だちの気持ちを考えて行動している。	82%
	8. 困っている人に声をかけたり、助けたりしている。	82%
	9. みんなで協力して活動することができている。	82%
自分のできることを発揮する子ども	10. 自分の得意なことや好きなことをがんばっている。	95%
	11. 授業や活動で、自分の役割をしっかりと果たしている。	95%
	12. 新しいことにもチャレンジしようとしている。	86%

◇グラフ



分析 2

児童生徒アンケートの結果からは、全体的に児童生徒が学校生活に前向きに取り組み、自己肯定感や協働意識が育っている様子がうかがえます。特に「自分の得意なことや好きなことをがんばっている」「授業や活動で自分の役割をしっかりと果たしている」などは95%と非常に高い肯定的回答率を示し、個々の成長やチャレンジへの意欲が感じられます。また、友達と協力することや他者を思いやる気持ちについても高い評価が得られています。自由記述からも「頑張ります」「できることがあったらすぐ手伝いをする」など、主体的な姿勢や成長意欲が見られました。今後は、児童生徒が自分の考えや気持ちをさらに表現できる場面を増やし、主体的な活動や協働の機会を充実させるとともに、一人ひとりの目標や得意分野を尊重した支援を進めていくことが重要です。また、回答してくれた22名の児童生徒以外にも、それぞれに感じていることはあると思うので、そういった児童生徒の気持ちを想像しながら、関わることも非常に大切だと考えます。